

①

# 生死

## 田中拓也選

人は生まれてから死ぬまでの間に何を為し、何を思うのだろうか。  
生と死の短歌を読むことは、人生を見つめなおすことに他ならない。

### 【生る】

春ここに生るる朝の日をうけて山河草木みな光あり

佐佐木信綱 『山と水と』 1951年

### 【命】

あたらしきいのちわが手に置かれたるこのしあはせよ信じて止まず

斎藤史 『魚歌』 1940年

あかあかと硝子戸照らす夕べなり鋭きものはいのちあぶなし

前川佐美雄 『大和』 1940年

吾命の残りすくなき暦より君に逢はざる日をなくなさむ

川田順 『東帰』 1952年

楡若葉そよぐを見れば大いなる生命のリズム我もさゆらぐ

鶴見和子 『回生』 2001年

生命の跡探すよう部屋の傷書き写しおり雨嗅ぎながら

佐佐木定綱 『月を食う』 2019年

### 【誕生】

秋空の澄み照る月のいや清に心ゆたかに生ひ立てよ吾子

佐佐木治綱 『秋を聴く』 1951年